



## 臨床医学研究のお知らせ

聖路加国際病院では、将来の医療を向上させるため、臨床医学研究を行っています。つきましてはご理解の上、ご協力をお願い申し上げます。なお、個人情報厳重に管理させていただきます。

研究計画や研究方法に関する資料をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体の目的や進行に支障となる事項以外はお知らせすることができます。ご質問がありましたら下記連絡先にお問い合わせください。

この調査では、ご協力を拒否することも自由です。もし、研究へのデータ・試料の利用を望まない場合は、下記の連絡先までご連絡いただくか、医療スタッフへ申し出てください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

### **【照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先】**

住所：〒104-0044 東京都中央区明石町 9-1

電話：03-3541-5151

担当者の所属・氏名 脳神経外科 望月 達城

### **【研究責任者】**

聖路加国際病院 神経血管内治療科 新見 康成

# 当院で脳梗塞治療を施行した方を対象とした研究

## 1.研究の対象

2022年1月1日～2023年12月31日に当院の脳神経外科・神経血管内治療科で脳梗塞の診断を受けられ、脳血流シンチグラフィまたはCT perfusionによる検査を受けられた患者さんが対象となります。

## 2.研究の目的・方法

脳梗塞は、脳血管の閉塞または狭窄により発生する脳疾患です。脳梗塞を発症すると運動麻痺や痺れ、言語障害、意識障害などの後遺症を残す可能性があります。脳梗塞の原因は高血圧や糖尿病などの生活習慣病により脳の血管が狭窄または閉塞することによります。脳梗塞の治療や予防には内服治療が行われますが、内服治療だけでは十分でない場合には、手術治療が必要となります。手術治療の必要性の評価に脳血流シンチグラフィという核医学検査が行います。脳血流シンチグラフィは放射線医薬品(アイソトープ)を点滴から投与し、脳でのアイソトープの分布を調べる検査です。この検査により脳を栄養する血液が十分足りているかどうかを評価し、十分でない場合には手術加療が選択されます。しかし、この検査の欠点として画像解像度が低い、撮像時間が1時間と長い、コストが高いといった点があります。近年では造影剤を用いた頭部CT検査を行うCT perfusion検査により脳を栄養する血液量の評価が可能となり、脳梗塞のリスク評価や手術治療の必要性の評価として用いられつつあります。CT perfusionは脳血流シンチグラフィに比べて画像解像度がよく、撮像時間も5分程度と短く、コストも低いいためより詳細な検査が可能で、患者さんへの負担も少ない検査です。一方で、臨床現場での使用経験はまだ浅く、更なる評価が必要と考えられます。本研究では、脳梗塞を発症し、脳血流シンチグラフィまたはCT perfusion検査による脳血流評価を行なった患者さんにおいて、治療内容や臨床経過をもとにCT perfusionの有用性に関し新たな知見を得ることを目指しています。なお、この調査では通常の保険診療以外の医療行為はなく、診療録(カルテ)に記載される内容についての調査のみとなります。

調査期間は当法人研究機関の長による実施許可後～2025年3月31日までの予定です。該当データの利用開始は、2024年2月26日を予定しております。

## 3.研究に用いる試料・情報の種類

主なデータ項目は以下となります。

《情報》 患者背景、病歴、治療歴、診療画像、副作用等の発生状況、カルテ番号 等